

教員養成の目標

山口学芸大学は、建学の精神「至誠」の心の継承と、芸術を基盤とする教育から時代の求める STEAM 教育を展望し、リベラルアーツ教育を充実することを通して、幅広い教養と豊かな人間性の涵養を目指している。また、生涯発達の視点で子どもを理解する高度な専門的知識と教育力、地域資源を活かしながら社会と連携・協働できる力、時代の変革に柔軟に対応できるグローバルな視野と課題発見や課題解決の力、Society5.0 を牽引する情報活用能力やコミュニケーション能力などを有し、地域社会の発展に貢献できる教員の養成を目標とする。

目標を達成するための計画

山口学芸大学は、2007（平成 19）年の開学以来、設置理念に基づく人間形成を基盤とした教育者・保育者の養成を主眼とし、4 年後の 2011（平成 23）年には専修課程を有する大学院を設置し、その 3 年後の 2014（平成 26）年には特別支援学校教諭の養成、さらにその 2 年後の 2016（平成 28）年には中学校・高等学校の英語教諭の養成をスタートするなどして、子どもの発達や学びの連続性、個別最適な学びを理解し、豊かな表現力やグローバル化にも対応しうる高いコミュニケーション能力を併せ持つ教員の養成に取り組んできた。

2022（令和 4）年からは、教育を取り巻く変化の激しい社会 に呼応し、これからの教育者・保育者に求められる力を身に付けるため、更なるカリキュラムの改善に取り組み、リベラルアーツの充実に向けた教養科目を土台として、多様な選択肢のある教職科目、英語や芸術系科目などの学びの幅を広げる科目、実践を通して子どもと関わる資質を高める「子ども学」、広い視野に立った視点で地域課題の発見や解決に取り組む PBL を含む「グローバル学」からなる、独自の教員養成プログラムを設定している。幼児教育と初等教育の連続性や、小中一貫教育、特別な配慮が必要な児童・生徒への対応など、社会の多様なニーズに対応で人材育成に取り組んでいるところである。

また、2024（令和 6）年からは、同じ山口市内にある山口大学・山口県立大学との三大学連携事業 SPARC 事業により、現在の教員養成プログラムに、STEAM 教育の強化や文理横断教育による総合知創出を図る「SPARC 教育プログラム」を組み合わせた新たなカリキュラムを実施し、将来のデジタル変革を支える子どもたちを育て、地域の課題発見や解決に貢献できる、より質の高い文系 DX 教員の養成に取り組んでいる。